

最近 10 年間のフランスのバカロレアの 哲学試験で扱われた哲学者

にしはらふみあき
西原史暁

概要

フランスのバカロレア（大学入学資格試験）の哲学テキストの解説を行う問題で、どのような哲学者・テキストが扱われたかについて、2007年から2016年までの10年分を紹介。

□

目次 はじめに 凡例 人文系 (littéraire; L) 経済社会系 (économique et social; ES) 理系 (scientifique; S) 解説

はじめに

ここでは、フランスのバカロレアにおける哲学の問題のうち、哲学テキストの解説を求める問題で、どのような哲学者・テキストが扱われたのかを紹介する。

フランスでは、大学入学資格を手に入れるための国家的統一試験としてバカロレア (baccalauréat) が毎年 6 月に行われる。この試験では、哲学 (philosophie) の問題に答える必要がある。バカロレアの哲学の問題では 3 つの問題が出され、その 3 問目は哲学者が書いたテキストの抜粋を読んで解説を書くものになっている [1]。本記事では、この 3 問目で扱われた哲学者とテキストを紹介する。

凡例

今回は、いわゆる一般バカロレア (baccalauréat général) の 3 専攻、すなわち人文系・社会経済系・理系のそれぞれに課された問題について扱うことにした。扱う範囲は、2007年から2016年までの10年分である。つまり、3専攻×10年で、30通りの問題を紹介することになる。

以下では、専攻ごとに最近の年次から順に、バカロレアで出題された哲学者およびそのテキストを紹介していく。

哲学者の名前には、日本語版 **Wikipedia** へのリンクが貼ってあるので、どういう人か知りたければそのリンクをたどれば良いだろう。哲学者の名前の後には、出題されたテキストの題名を日本語とフランス語で記しておいた。フランス語のテキストのタイトルには、**France-examen** という **Web** サイトへのリンクが貼ってある。このリンクをたどると、実際に出題された問題、およびその解答例を見ることができる。また、扱われた哲学テキストのうち、和訳が出ているものは、その旨を脚注に記しておいた。

人文系 (littéraire; L)

- ・2016年：ハンナ・アーレント『真理と政治』(Vérité et politique) [2]
- ・2015年：アレクシ・ド・トクヴィル『アメリカの民主政治』(De la démocratie en Amérique) [3]
- ・2014年：カール・ポパー『客観的知識』(La connaissance objective) [4]
- ・2013年：ルネ・デカルト『エリザベトへの手紙』(Lettre à Elisabeth) [5]
- ・2012年：ベネディクトゥス・デ・スピノザ『神学・政治論』(Traité théologico-politique) [6]
- ・2011年：フリードリヒ・ニーチェ『悦ばしき知識』(Le gai savoir) [7]
- ・2010年：トマス・アキナス『神学大全』(La Somme théologique) [8]
- ・2009年：アルトゥル・ショーペンハウアー『意志と表象としての世界』(Le monde comme volonté et comme représentation) [9]
- ・2008年：ジャン＝ポール・サルトル『倫理学ノート』(Cahiers pour une morale)
- ・2007年：アリストテレス『ニコマコス倫理学』(Ethique à Nicomaque) [10]

経済社会系 (économique et social; ES)

- ・2016年：ルネ・デカルト『哲学原理』(Principes de la philosophie) [11]
- ・2015年：ベネディクトゥス・デ・スピノザ『神学・政治論』(Traité théologico-politique)
- ・2014年：ハンナ・アーレント『人間の条件』(Condition de l'homme moderne) [12]
- ・2013年：アンセルムス『調和について』(De la concorde) [13]
- ・2012年：ジョージ・バークリー『受動的服従』(De l'obéissance passive)
- ・2011年：セネカ『恩恵について』(Les bienfaits) [14]
- ・2010年：エミール・デュルケム『道徳教育論』(L'éducation morale) [15]
- ・2009年：ジョン・ロック『人間悟性論』(Essai sur l'entendement humain) [16]
- ・2008年：アレクシ・ド・トクヴィル『アメリカの民主政治』(De la démocratie en Amérique)
- ・2007年：フリードリヒ・ニーチェ『人間的な、あまりに人間的な』(Humain, trop humain) [17]

理系 (scientifique; S)

- ・2016年：ニコロ・マキアベリ『君主論』(Le Prince) [18]
- ・2015年：キケロ『予言について』(De la divination)
- ・2014年：ルネ・デカルト『精神指導の規則』(Règles pour la direction de l'esprit) [19]
- ・2013年：アンリ・ベルクソン『思考と動き』(La pensée et le mouvant) [20]
- ・2012年：ジャン＝ジャック・ルソー『エミール』(Emile) [21]
- ・2011年：ブレイズ・パスカル『パンセ』(Pensées) [22]
- ・2010年：トマス・ホッブズ『リヴァイアサン』(Léviathan) [23]
- ・2009年：アレクシ・ド・トクヴィル『アメリカの民主政治』(De la démocratie en Amérique)
- ・2008年：アルトゥル・ショーペンハウアー『意志と表象としての世界』(Le monde comme volonté et comme représentation)
- ・2007年：デイヴィッド・ヒューム『道徳原理の研究』(Enquête sur les principes de la morale) [24]

解説

以上の3専攻×10年＝30問で、22人の哲学者が扱われている。女性はアーレントの1人のみで、残りは全員男性である。時代的に見ると、古代の哲学者が3人（アリストテレス・セネカ・キケロ）で、中世の哲学者が2人（トマス・アクィナス・アンセルムス）であり、残りは近世以降の哲学者である。近世以降の哲学者は、16世紀初頭に活躍したマキアベリを除けば、17世紀 [25] ・18世紀 [26] ・19世紀 [27] ・20世紀 [28] にバランス良く分かれている。

地域的な面で言うと、ほぼ全員がヨーロッパの哲学者である。かろうじて、ドイツ生まれでアメリカに逃れたアーレントがヨーロッパ以外の地域の哲学者と言えなくもない。

ヨーロッパの中では、フランス・ドイツの哲学者が扱われることが多いが、ロックなどイギリス経験論の哲学者も少なくない。

なお、以下の6人の哲学者は複数回扱われている。

- ・トクヴィル：3回
- ・デカルト：3回
- ・アーレント：2回
- ・ショーペンハウアー：2回
- ・ニーチェ：2回
- ・スピノザ：2回

また、テキストの出典という面から言うと、以下の3つのテキストが複数回扱われて

いる。

- ・トクヴィルの『アメリカの民主政治』：3回
- ・ショーペンハウアー『意志と表象としての世界』：2回
- ・スピノザ『神学・政治論』：2回

脚注

1.なお、3つの問題をすべて解く必要はなく、受験者は1つを選択して答えれば良い。

[←]

2.みすず書房の『過去と未来の間——政治思想への8試論』の中に『真理と政治』の和訳が載っている。 [←]

3.岩波文庫に『アメリカのデモクラシー』というタイトルの和訳がある。 [←]

4.木鐸社の『客観的知識—進化論的アプローチ』という和訳がある。 [←]

5.講談社学術文庫に『デカルト＝エリザベト往復書簡』というタイトルの和訳がある。

[←]

6.光文社古典新訳文庫の和訳がある。 [←]

7.ちくま学芸文庫の和訳がある。 [←]

8.中公クラシックスの和訳がある。 [←]

9.中公クラシックスの和訳がある。 [←]

10.岩波文庫の和訳や光文社古典新訳文庫の和訳がある。 [←]

11.岩波文庫に『哲学原理』というタイトルで和訳がある。岩波文庫には『デカルトの哲学原理』というものもあるが、こちらはスピノザの手によるもの。 [←]

12.ちくま学芸文庫の和訳がある。 [←]

13.聖文舎のアンセルムス全集に「自由選択と予知、予定および神の恩寵の調和について」というタイトルで和訳がある。 [←]

14.岩波書店のセネカ哲学全集第2巻 倫理論集Ⅱに和訳が収録されている。 [←]

15.講談社学術文庫の和訳がある。 [←]

16.岩波文庫の和訳がある。 [←]

17.ちくま学芸文庫の和訳がある。 [←]

18.講談社学術文庫の和訳や中公文庫 BIBLIO の和訳がある。 [←]

19.岩波文庫の和訳がある。 [←]

20.平凡社ライブラリーの和訳がある。 [←]

21.岩波文庫の和訳がある。 [←]

22.中公クラシックスの和訳や岩波文庫の和訳がある。 [←]

23.中公クラシックスの和訳や光文社古典新訳文庫の和訳がある。 [←]

24.哲書房からの和訳がある。 [←]

25.デカルト・パスカル・スピノザ・ロック・ホッブズ。 [←]

26.バークリー・ルソー・ヒューム。 [←]

27.トクヴィル・ニーチェ・ショーペンハウアー。 [←]

28.ベルクソン・デュルケム・アーレント・ポパー・サルトル。ただし、ベルクソンやデュルケムは19世紀から活躍している。 [←]

シェアする！

Twitter

Facebook

はてなブックマーク

この記事を書いた人について

この記事を書いた人は西原史暁 (**Fumiaki Nishihara**) といいます。連絡を取りたい場合はこちらのメールフォームからどうぞ。こまごまとした情報は、**Twitter** でつぶやいています。良かったら見てください。

この記事の基本情報

作成日

2016 年 10 月 10 日

カテゴリ

・その他

タグ

・バカロレア

・入学試験

・哲学

この記事のライセンス

この「最近 10 年間のフランスのバカロレアの哲学試験で扱われた哲学者」という記事は、著作権が全て留保されています。当サイトのライセンスに関しては、「ライセンスについて」という文章もご覧下さい。

関連記事

米国の大学の授業でよく使われている文献トップ 100

ウェブ上のシラバス情報をもとに米国の大学の授業でよく用いられている文献を 1 位から 100 位まで順に並べたリスト。文献の和訳の情報とその文献の簡単な解説を付す。

「その他」に関する最新記事

2016 年の人気記事五選

2016 年に当ブログに投稿された記事で、人気があった記事を 5 つ紹介する。

ATOK のリフレッシュナビが意外と便利

日本語入力システムの ATOK 2016 の Windows 版のリフレッシュナビ機能の紹介。長時間入力を続けると休憩を促すメッセージが出る機能が便利である。

最近 10 年間のフランスのバカロレアの哲学試験で扱われた哲学者

フランスのバカロレア（大学入学資格試験）の哲学テキストの解説を行う問題で、どのような哲学者・テキストが扱われたかについて、2007 年から 2016 年までの 10 年分を紹介。

以上，引用作成 やなぎさわかつひろ 柳沢克央（上田仮説サークル）

2017 年 1 月 28 日（土），上田仮説サークル 1 月例会用資料として 15 部作成